会 議 録

会議の名称	令和6年度第1回名取市子ども・子育て会議
開催日時	令和6年8月29日(木) 午後2時00分～午後3時00分
開催場所	名取市役所 議会棟第一、第二委員会室
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 委員長挨拶 3. 議 第 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次世代育成支援の施策の取り組み状況について 第二期計画の進捗状況について (2) 調査の集計について <ol style="list-style-type: none"> ①アンケートの実施状況について ②アンケート速報値 (3) 計画骨子案・目次案 <ol style="list-style-type: none"> ①目次案(2期から3期への比較) ②第三期名取市子ども・子育て支援事業計画骨子案 4. その他 5. 閉 会
会議資料	資料No.1-1 次世代育成支援の施策の取組状況について 資料No.1-2 第2期名取市子ども・子育て支援事業計画(次世代育成支援施策)(第4章)進捗状況調査票 資料No.2 アンケートの実施状況について 資料No.3 アンケート速報値 資料No.4-1 目次案 新旧比較 資料No.4-2 第3期名取市子ども・子育て支援事業計画 骨子案 第2期名取市子ども・子育て支援事業計画
公開・非公開の別 (非公開の場合 はその理由)	公開
傍聴人の数 (公開した場合)	0人
出席委員	前田有秀委員長、浅川千尋委員、下嶋博和委員、新田亜紀子委員、大内克浩委員、星香苗委員、久米智美委員、佐藤宏郎委員、松川弘委員、齋藤勇介委員、小川ゆみ委員、高橋秀幸委員、佐藤真一委員
欠席委員	日出香委員、保志真由委員
事務局	安倍部長、西坂課長、佐藤補佐、相澤係長、佐藤係長、中澤係長、菊池主査、小林主査 委託事業者：サーベイリサーチセンター 橋本課長

<会議内容>

- ・開会に先立ち、委員の異動と新しい委員を委嘱したことを説明。

1 開会

2 会長挨拶

3 議題

(1) 次世代育成支援の施策の取り組み状況について

第二期計画の進捗状況について

- ・資料No. 1-1、No. 1-2を用いて説明。

委員：資料1-2 4ページ目の子ども家庭総合支援拠点について、こども家庭センターに組織変更したとのことで、先日、全国の主任児童委員連絡会議があり主任児童委員としてもこども家庭センターと連携して動きたいので検討してほしい。

委員：事業としては廃止だが、こども家庭センターに組織変更したとのことで、連携は可能という理解でよろしいか。

事務局：具体的な方法は検討させていただきますが、連携可能です。

委員：資料1-2 1ページ目の産後ケア事業について、県での集合契約という形になり、妊産婦が行ける場所が一見広がったように見えるが、実際に市民が利用しようとする、行ける場所が少なく、名取市内の産科でも生後5か月までしかやっておらず、中々予約が取れないという声が聞こえてきている。

出生数が減っている中で妊産婦をどうケアするかは喫緊の課題で、市外の病院はあるが出かけることが大変な状況なので、市内で産後ケアが受けられる状況が本来の拡充であると思う。県の集合の契約になり、非常に混んでいるという状況は名取市でも把握されていたか確認したい。

事務局：産後ケア事業は、当初は市独自で契約していましたが、宮城県が県内全体で集合契約という形となり、それに名取市も入らせていただいたので、場所としては24か所に増え、昨年と比べれば広がっています。ただ、利用希望の方も大分増えているというのも実感としてございますので、なかなか使えないということは聞いています。市内の産科でも数を増やすこと難しいということも聞いているので、現在、保健センターで事業を運営していく中では苦労しているところです。

(2) 調査の集計について

- ①アンケートの実施状況について
- ②アンケート速報値

・資料No. 2、No. 3を用いて説明。

委員：市の子育て支援に期待することとして、未就学では出費負担の軽減、未就学と小学生両方に共通するのは、親子でどこか出かけた場所を期待している。ここが、コロナ後での影響があるか、専門家としては嬉しい。

(3) 計画骨子案・目次案について

①目次案（2期から3期への比較）

②第三期名取市子ども・子育て支援事業計画骨子案

・資料No. 4-1、No. 4-2を用いて説明。

委員：アンケートの中でもあった安心して出かけられる場所を増やしてほしいということ踏まえ、整備も含めた居場所づくりの要望のように感じた。子ども家庭庁でもこどもの居場所づくりに重点を置いて取り組んでいく中、名取市でもニーズが高いと感じているところ。先日のこどもの意見聴取の場でもお話を聞かせてもらったが、地域の中に居場所と感じる場所はあると聞いた。具体的には、児童センターや民間でやっている居場所などあったが、小学校区内では選べる状況ではない。自由に選択して気軽に行ける居場所がいくつかあるといいとの声があり、施設を増やすだけでなく、公園の活用でプレーパークのような事業を開催するなど、ハード面を整えなくともできるものがあると感じた。こどもたち自身にとって居場所は大人がいるところ、見守ってくれて困った時に助けてもらえるような、寄り添ってくれるような地域という声が出てきた。そういった意見も反映しながら、小学校区の中で自由に居場所として選べるような場所があるといい。また、大型遊具がある屋内遊戯施設の話は県の会議でも話が出ており、夏場の暑さにより屋外での活動ができないような時に、気軽に行けるような場所があると良い。様々な視点での居場所づくりをこの施策の中にしっかりと盛り込んだほうがいいということで、1つ意見を述べさせてもらう。

事務局：アンケートを踏まえて、今ご指摘のありました屋内で遊べる施設やこどもの意見を反映した、見守ってもらって安心して過ごせる場などについてできることから検討していきたいと考えております。

委員：こどもの居場所づくりで、以前、私たちがイベントで子育て中のお母さんたちを視野に入れた何でも相談を行ったが、そこに小学生が来て第三者の大人に相談をするという場面があり、家庭の中のことを誰にも相談しないで抱えているこどもも中にはいて、ただそこで話を聞いて欲しいという居場所づくりも必要だとその時感じた。今回、大人がいる居場所づくりの必要性が現実的に感じられたので、参考にさせていただきたい。

資料4-2の19ページに、こどもや母親を含めた保護者の心身の健康や確保とあるが、今の名取市の現状を教えてください。また、それをサポートしたいという団体、そこに介入していいものかどうかということも含めて教えてください。

きたい。

事務局：担当は母子保健なので保健センターですが、検診等で様子を伺いながら、相談事業ではニーズも伺いながら養育支援の事業つなげている状況でございます。また育児の悩みなどあれば、こども支援課の子育て関係でお話をお伺いする相談員がいるため、そちらで相談の内容を深めていくようにしております。

事務局：母子保健分野と児童福祉分野で連携して、妊娠期から子育て期までの寄り添い型で支援するというこども家庭センターという組織ができ、こども支援課の中にあるような状況です。その中では、保健師や家庭児童相談員が直接相談に応じたりしているところでもありますが、連携については、民間の方々と組んで地域のマンパワーの活用について検討したいと考えておりますので、個別にお声がけいただければと思います。

委員：それは具体的にどこに言えばというところは明らかになっているか。

事務局：こども支援課のこども家庭センターにおっしゃっていただければ問題ございません。

委員：齋藤委員に聞きたいが、こどもたちの居場所づくりはとてもいいと思うが、小学生のこどもたちが児童館の他に、自分たちで自由に行き来する場所、もうちょっと具体的にどういうイメージでいるか確認したい。今後、行政として居場所づくりというテーマで検討する際に具体的なイメージがあれば。

委員：おっしゃった通り、昔は地域との関係性の中で、地域にいる子供たちの顔や名前も地域の大人たちが見えていたので、全てが居場所だった。

今はそこが難しいので、公的サービスの中でプレイリーダーのような人たちが、例えば公園にいるだけでも、そこはある意味居場所になると思う。また、放課後子ども教室など公民館などで地域の中に事業として入っていくと、居場所のひとつになると思う。

大人が積極的に何かを指導する場所ではなくて、子供たちが自由に出入りできる中で、相談に乗って話を聞いたり見守られたりするような環境で、こどもたちの声の中では、例えば駄菓子屋さんも居場所と言われているので、民間でやるようなところも居場所のひとつになる。今ある公的な事業の中で実施できるようなもの、さらに地域の顔の見える関係性を作っていくことで増えると考えます。

委員：まさに地域が崩れている。今、公園で遊ぶのも、ちょっと声かけられた、写真撮ったというだけで、不審者とされる中で、人間関係も昔のようではなくなっている。

こどもたちの居場所づくりというテーマが出されると、やはり児童館や幼稚園、認定こども園などが保育をやって、保護者が迎えに来るまではしっかり居場所になっている。

保護者がこどもを迎えに来る姿はとってもいいなと思っている。こどもも保護者が迎えにきて、そして家に帰るのが今の現在の姿。

小学生たちも放課後児童クラブでは、保護者が迎えに行かないと暗くて怖い。具体的な居場所とは何なのかと具体的なイメージが必要。

委員：うちの方では、愛島台で集会所を週2回開放して、主任児童委員や区長が子どもたちを見る取組を、3時半から4時半ぐらいの1時間の取組を行っている。見てくれていると子ども10人ぐらい来て、遊んでいく。4時半以降子どもたちは近所なので、おうちに帰る。愛島台はちょっと特殊なので、他の地域とは違う。だからそこは結構うまくいくようだ。

委員：小学校で何時までに家に帰りましょうと約束の時間が決められていて、子どもたちは基本的にそれに合わせて利用している。

委員：見守り隊や集会所、公民館もうまく使えればと思う。

委員：例えば、今回の広報に載っていた空き家活用など、場所にもよるが、そういう場所をリノベーションして利用できる多世代が募れるようなみんなの家の様なものがあるというのも1つ思った。

委員：仙台市の受託で実施しているが、担い手育成事業という、ボランティアや地域の民生委員、町内会の方が地域の子どもと関われるようなスキルを身につけるっていう事業が始まっているが、場所を作るのはなかなか難しいなと（感じる）。放課後の居場所事業、国の事業では場所にお金が出ず、その仕組みを立ち上げるところまでは国も支援するが、そのあとは地域の方で、子ども・子育てではなく、地域の方でやってくださいとなる。まちづくりや地域づくりの観点に移っていくので、地域で見守ってくださる方に理解を促すことは、福祉の観点で担い手育成などでの仕組みができないと、地域でも気軽には言えない。

今すでに居場所をやられているところに、パワーやお金をかけ、少しずつソフト面で広まっていくのが、スピード感を持ってできるやり方。外遊びのプロの皆さんも名取にいますので、そこへの予算、気軽に行けるような日程で数が増えるといい。

委員：cocoI' 11はうまくやっていると思う。そういう場所が増えればいいと感じる。

委員：今、出前を始めているので、地域で根付かせるような活動に予算が付けばいい。

委員：名取は仙台の隣で、都会でもない田舎でもない、まだ何とか居場所づくりができる地域性が残っていると思う。増田のまちになると核家族で祖父母がいない家が多いので、何か取組が必要。

委員：先日の全国大会の方で主任児童委員の発表された内容で1つ報告ですが、妊婦で、お手伝いしてくれる祖父母と一緒に住んでいても、双子が妊娠したなど家事ができない妊婦に対して、月6回お弁当を安く提供するサービスをしていると聞いた。赤い羽根募金を使っているらしいが、主任児童委員が届けてどうですかとお話をする支援ができるのはすごくいいと感じた。

委員：今後、第4章以降を作っていくと思うが、基本目標5と基本目標7について、意見をお伝えしたい。アンケートで言うと14ページの名取市で実施している施策の評価というところからの反映になると思う。

私どもの施設は土日もオープンしている施設なので、非常に多くの働いている親御さんたちが来る。この基本目標5の職業生活と家庭生活の両立支援は緊急の課題だと思っていて、ご夫婦だけでお子さんを育てながら共働きというご家庭が非

常に増えている。皆さん共働きが限界と言っており、頼れる方がコロナ禍を経て本当に少なくなってしまって、またご両親が高齢だという方も増えてきており、お母さんたちがお仕事をされているので、平日の午前中の子育て支援というだけではカバーできないぐらいの大変さを抱えている。それらの両立支援が、共働き世帯への保育は十分取り組んでいると思うが、子育て世帯がゆとりを持って子育てできる環境というのが共働き世帯には難しいと思う。土日も含めた子育て支援の拡充はとても大切というのと、その働いている皆さんが情報にアクセスできる、自分がどんなサポートが受けられて、どんな相談が受けられる、もっとより細かくきちんと届けられるような仕組みが必要ではないかと感じた。

こども家庭センターの話があったが、どうしても公的な情報は平日の支援しかないの、土日も含めた民間の情報も含めて、出向いて情報収集する、働いている方に何が必要というアウトリーチをもっと強化していただきたい。両立支援には、そういう具体的な目標が掲げられるいいと思う。

もう1つ、基本目標7のところ、困難を有する子どもやその家庭の支援というところは、15ページのアンケート結果では、「わからない」や「無回答」となっている。困難を有するこどもたちの家庭で何の支援が必要で、何をされるかイメージがない。実際に私たちが相談を受けて、「自分はそんなに困難じゃないと思っている」や「相談が必要ないと思っていた」など外から見ると実は大変な中にいる。

「わからない」という回答が多いということは、それだけ支援の中身について、伝わっていないのではないかと思う。虐待家庭や、シングルマザーなど様々な困難はあると思うが、それに陥る前の予防的な動きがもっともっと目標のところに入るといいのではないかと思う。

ひとくちで貧困というと「うちは別にお金に困ってないから」という括りになってしまうので、困難といういろいろな観点で困難になる可能性がある、そこへの支援を充実させていますという表現や見方が必要と思う。もし、この基本目標7のところ、具体的な支援で何か施策を考えられていて、書き入れることが何かありましたら、お聞かせいただきたい。

事務局：今回、初めて子どもの貧困に関するアンケートを取らせていただいて、今から分析ということになり、ヤングケアラーの観点は考えておりましたが、具体的な事業については、今後内容を深めて、貧困計画を内包するというようにさせていただいておりますので、基本目標7のところについて施策はきっちりと対応していきたいと考えております。ただ、具体的にお示しするような段階ではなかったので、次回以降対応させていただきたいと考えております。

委員：支援はすごく大きいとは思いますが、困難家庭の相談対応ですとか、土日も含めた個別の支援やアウトリーチというようなものが入っていくと、皆さん安心されると思う。

4. 閉会